

エコアクション21

2024年度 環境経営レポート

対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

発行日

2025年5月20日



東洋ガラス機械株式会社
TOYO GLASS MACHINERY CO., LTD.

目次

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、
並びに違反、訴訟などの有無
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

1. 組織の概要

◇ 事業所名及び代表者氏名

東洋ガラス機械株式会社

代表取締役社長 中川 浩一

◇ 所在地

神奈川県横浜市鶴見区矢向1丁目1番70号

(2020年7月1日～)

◇ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役 増島 勲

担当者 品質保証部 俵 勉

連絡先 電話 045-585-1650 FAX 045-570-4515

ホームページアドレス <http://www.tgm-co.com>

◇ 創立年 1959年

◇ 資本金 1億円

◇ 総従業員数 95人【常勤役員4名除く】2024年4月1日時点

94人【常勤役員4名除く】2025年4月1日時点



～東洋ガラス機械は、東洋ガラスグループ・東洋製罐グループの一員です～

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1. 対象となる組織

全組織

2. 事業活動（対象範囲）

- ・ガラス容器(びん、食器)及びプラスチック容器などの意匠設計、金型設計、金型製造販売。
- ・びん、食器、プラスチック容器製造用諸機械の設計、製造販売。
- ・ガラス容器(びん、食器)製造に関する技術指導。
- ・食器機械および一般産業機械の開発設計、製造販売及び輸入販売。

3. 対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

4. 発行日

2025年5月20日（次回発行予定2026年5月）

3. 環境経営方針

東洋製罐グループの一員として、地球環境の保全と改善を重要課題と強く認識し、企業活動において環境に対し自主的に、積極的に推進していきます。

《 環境保全への行動指針 》

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 環境経営目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
3. 生産方法の見直しや不良低減で、当社が使用する電力エネルギーの不要な部分の徹底的な削減を推進します。
4. 物流梱包の見直し、歩留り向上、不良低減で、廃棄物の削減を図ると共に、環境改善に努めます。
5. 作業に使用する化学物質使用量の抑制に努め、環境保全に努めます。
6. 生産設備におけるさまざまなロスを見直し、効率的で省エネルギーな生産体制の推進に努めます。
7. 環境にやさしい設計及び製品の生産を積極的に推進します。
8. 全従業員並びに当社で働く人々に、この環境経営方針を周知し、環境改善に努めます。

東洋ガラス機械株式会社

2025年4月1日

代表取締役社長

中川浩一

4. 環境経営目標

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、二酸化炭素排出量の95%を占める電力使用量、廃棄物処分量、コピー用紙購入量、総排水量の削減に取り組む。環境負荷と環境への取組結果を踏まえ、定めた環境負荷低減のための目標値は次の通りである。

環境負荷低減目標 基準値：2023年度（2023年4月～2024年3月）とする。

項目	単位	基準値	2024年度		2025年度		2026年度	
			実績値	達成率	実績値	達成率	実績値	達成率
二酸化炭素排出量	kg-Co2	987,105	961,129	97.4%	960,149	97.3%	959,169	97.2%
電力使用量	kWh	2,118,853	2,065,386	97.5%	2,063,279	97.4%	2,061,171	97.3%
自動車燃料使用量	L	7,502	6,887	91.8%	6,880	91.7%	6,873	91.6%
コピー用紙購入量	kg	1,268	1,100	86.8%	1,090	86.0%	1,078	85.0%
廃棄物処分量A	kg	30,792	30,176	98.0%	30,022	97.5%	29,868	97.0%
廃棄物処分量B	kg	2,512	2,450	97.5%	2,437	97.0%	2,424	96.5%
総排水量	m ³	1,290	1,276	98.9%	1,263	97.9%	1,250	96.9%
化学物質使用量	kg	70	70以下	100%	70以下	100%	70以下	100%
本来業務	加工ロス削減、設備・機械のメンテナンス、加工・作業の見直し、加工プログラムの見直し、カイゼン提案による作業時間短縮等をテーマに活動を行っている。							

使用電力に対する二酸化炭素排出係数は2020年度の0.457を採用
 廃棄物処分量Aはリサイクル含む、廃棄物処分量Bはリサイクル除く

5-1. 環境経営計画

No.	推進項目	単位	目標	計画内容
1	二酸化炭素排出量削減	kg-Co2	961, 129 以下	電力使用量監視、社有車のガソリン使用量監視、品質パトロール
2	電力使用量削減	kWh	2, 065, 386 以下	電力使用量監視、品質パトロール、コンプレッサー室ファンの設定変更
3	自動車燃料使用量削減	L	6, 887 以下	社有車のガソリン使用量監視
4	コピー用紙購入量削減	kg	1, 100 以下	両面印刷、集約印刷の実施
5	廃棄物A処分量削減	kg	30, 176 以下	リサイクルの推進、分別の細分化
6	廃棄物B処分量削減	kg	2, 450 以下	リサイクルの推進、分別の細分化
7	総排水量削減	m ³	1, 276 以下	水使用量の把握、節水の呼びかけ
8	化学物質使用量削減	kg	70 以下	使用量の把握

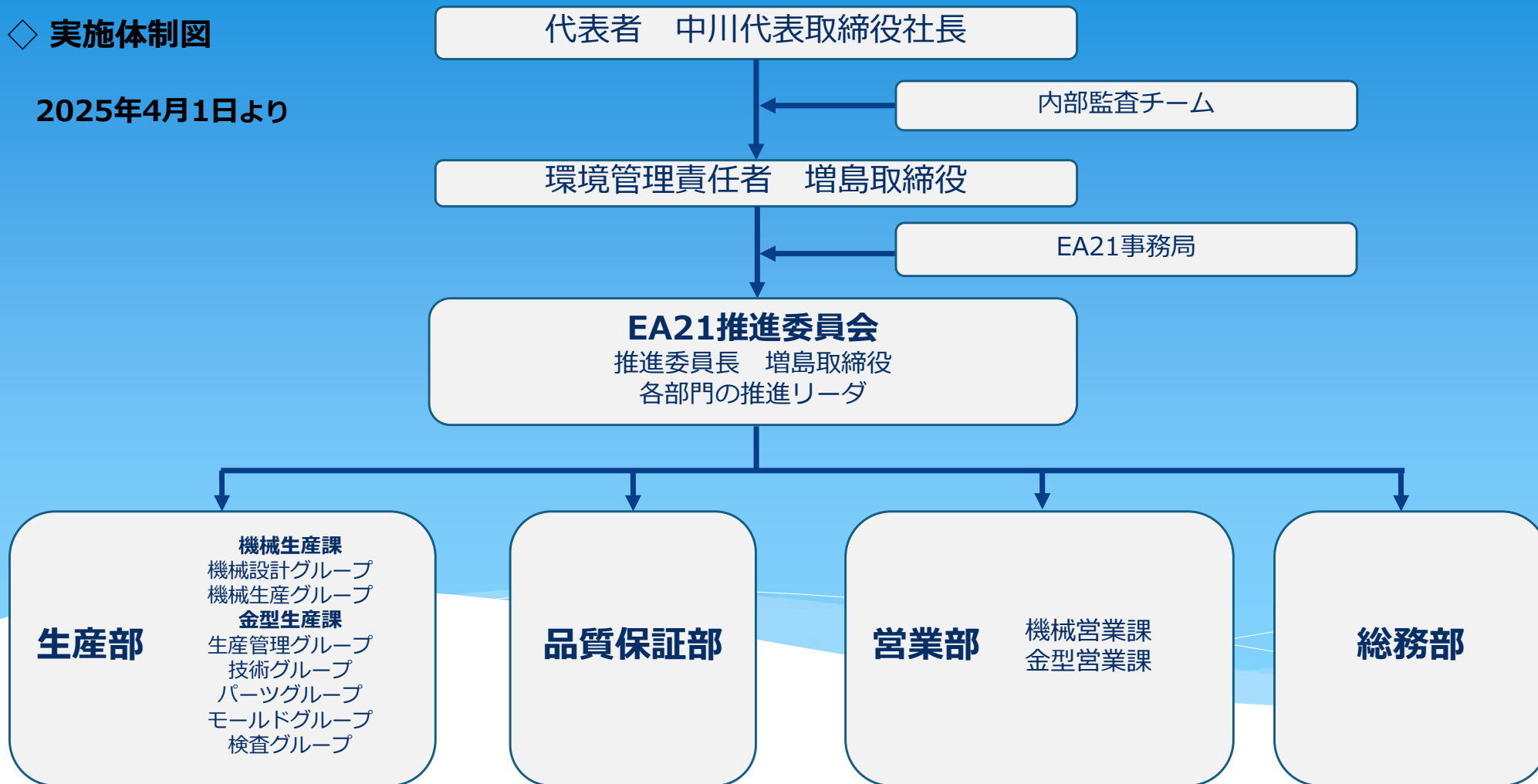
5-2. 2024年度の環境経営計画（本来業務）

実施部署		計画内容
営業部	金型営業課	纏め出荷によるトラック数の削減(CO2削減)。
	機械営業課	金型出荷用定期便を週3回から週2回に。
品質保証部		社員の品質意識向上（教育・パトロールによる指摘） 職場での品質KYTの浸透
生産部	機械生産課	設計レビューの拡大と充実(継続)
	金型生産課	省エネを意識した改善の立案 品質向上させて再製作などに掛かる生産ロス(素材及び溶接費用)を削減する。
総務部		昼食（弁当）の電子申請化 税務関係の電子申請化 データベースの構築（マネジメントシステム・設備関連）

6-1. 実施体制（2025年4月1日～）

◇ 実施体制図

2025年4月1日より



6-2. 主な取組内容

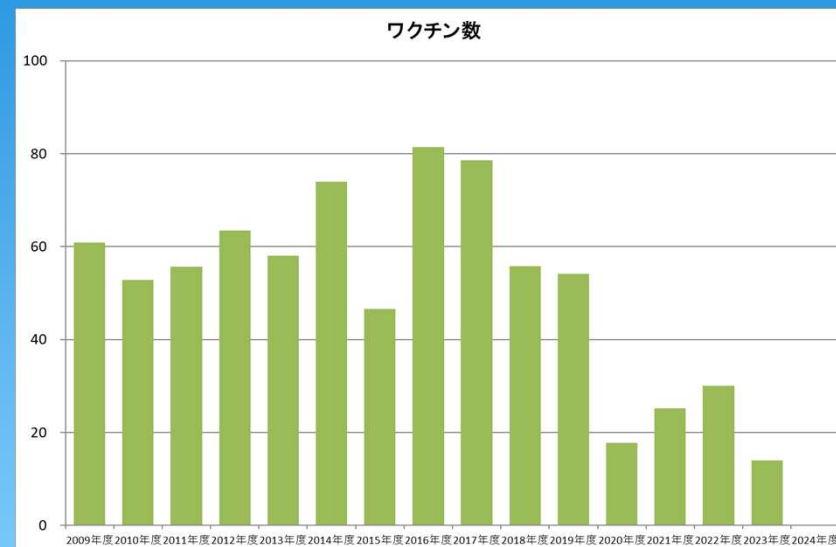
実施部署		計画内容	取組内容
営業部		纏め出荷によるトラック数の削減(CO2削減)	週3回で運行している輸送を2ヶ月に1回は週2回で運行するために生産部と出荷計画を調整した。機械営業とコラボし、機械事業の部品と一緒に納品するため毎朝の営業ミーティングで情報共有し、スケジュールの調整を行った。
		コピー用紙削減	コピー用紙の使用量を削減し、シークレットBOX使用の見直しする。
品質保証部		社員の品質意識向上を図り不良削減に繋げる。	品質不正問題を題材に社内教育を展開。 品質保証－品質管理の資料を作成し教育を展開する。 品質パトロールの更なる強化
		品質KYTの教育を実施し浸透させる	朝ミーティングでの品質KYT活動の定着
生産部	機械生産課	設計レビューの拡大と充実	設計前や工事前にレビューを行う事でミスを低減させる。
	金型生産課	品質向上させて再製作などに掛かる生産ロス（素材、溶接、修正工数）を削減	実作業と作業標準との違いを見直し⇒教育⇒効果の確認を行う。
総務部		業務システム活用等による自部門業務効率化	各行政の申請や届出の電子申請や、社内の申請業務を電子化し、届出・申請業務の効率化を図る。
		データベース整備推進	データベースを活用し、データの一元化や申請・承認業務の効率化を図る。

6-3. 地域社会貢献活動 ①

◇ ペットボトルのキャップ分別回収

社内で飲用したペットボトルのキャップを分別回収し、特定非営利活動法人（NPO法人）Reライフスタイルに提供し、集めたキャップは樹脂メーカーに引き取られ、その対価が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCVC）」を通じて世界の子どもたちにワクチンが届けられていましたが、Reライフスタイルが2024年度をもって解散することになりました。

既に回収が打ち切られてしまったため**2024年度は19.47kg（ワクチン19本分）**が未回収となりましたが、今後新しい提供先を探して社内回収を継続していきます。



◇ 使用済み切手の回収

使用済み切手をJOCS（公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会）に送ることにより、アジアやアフリカの草の根の人々の自発的な努力をワーカー派遣と奨学金支援により側面から支える運動に参加しています。

5,000枚（約1kg）の使用済み切手を換金すると約1,800円、これはタンザニアで看護学生ひとりの1年分の教科書代になります。

従来廃棄されていた使用済み切手を収集し、定期的にJOCSに、送付しています。



6-3. 地域社会貢献活動 ②

◇ 会社外周部の清掃（1年に一度実施）

2024年10月18日（水）鶴見区地域振興課 資源化推進担当 主催、
「鶴見クリーンキャンペーン2024」に参加しました。

当日は、昨年につき、東洋製罐(株) メビウスパッケージング(株)、東洋メビウス(株)、
東洋ガラス(株)と合同で、鶴見川沿岸（末吉橋～新鶴見橋）の清掃を実施しました。



全体では40名強
が参加
東洋ガラス機械
参加は11名

7-1. 2024年度環境活動の取り組み結果の評価

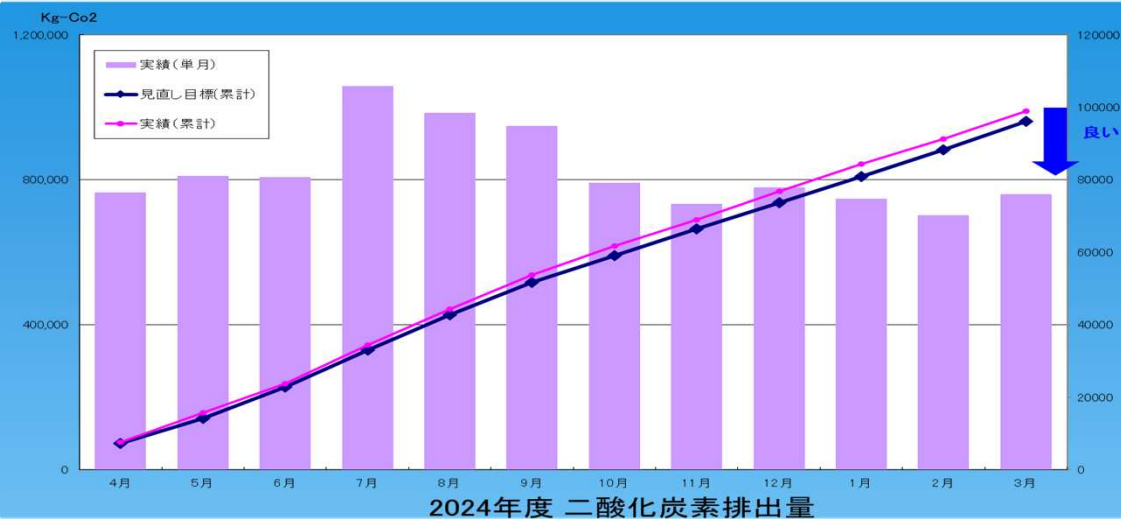
No.	推進項目	単位	目標	実績	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kg-Co2	961, 129 以下	989, 277	×
2	電力使用量削減	kWh	2, 065, 386 以下	2, 130, 071	×
3	自動車燃料使用量削減	L	6, 887 以下	6, 320	○
4	コピー用紙購入量削減	kg	1, 100 以下	1, 148	×
5	廃棄物A処分量削減	kg	30, 176 以下	36, 581	×
6	廃棄物B処分量削減	kg	2, 450 以下	2, 316	○
7	総排水量削減	m ³	1, 276 以下	1, 280	×
8	化学物質使用量削減	kg	70 以下	8. 52	○

- ◆ 二酸化炭素排出量削減は98%をしめる電力の未達が影響して目標未達でした。排出係数は0.457を使用)
- ◆ 電力使用量については、猛暑による空調の影響で目標未達でした。
- ◆ 自動車燃料については、目標達成しました。
- ◆ コピー用紙については、上期に使用量が多かった影響で目標未達でした。
- ◆ 廃棄物Aに関しては、4月の機械オーバーホールによる洗浄の影響で目標未達でした。
- ◆ 廃棄物Bに関しては、目標達成しました。
- ◆ 排水量削減については、機械オーバーホールによる洗浄と消火栓訓練の影響で目標未達でした。
- ◆ 化学物質使用量については、維持管理の範囲です。

7-2. 環境活動の取り組み結果の推移 ①

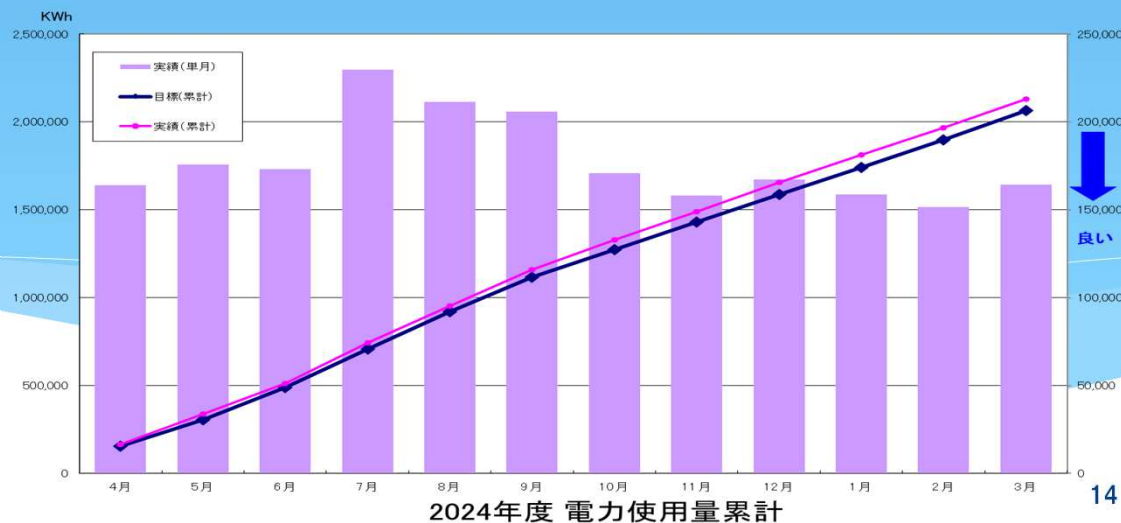
2024年度 二酸化炭素排出量累計

98%をしめる電力の未達が影響し
目標未達成



2024年度 電力使用量累計

猛暑による空調の影響で
目標未達成



7-2. 環境活動の取り組み結果の推移 ②

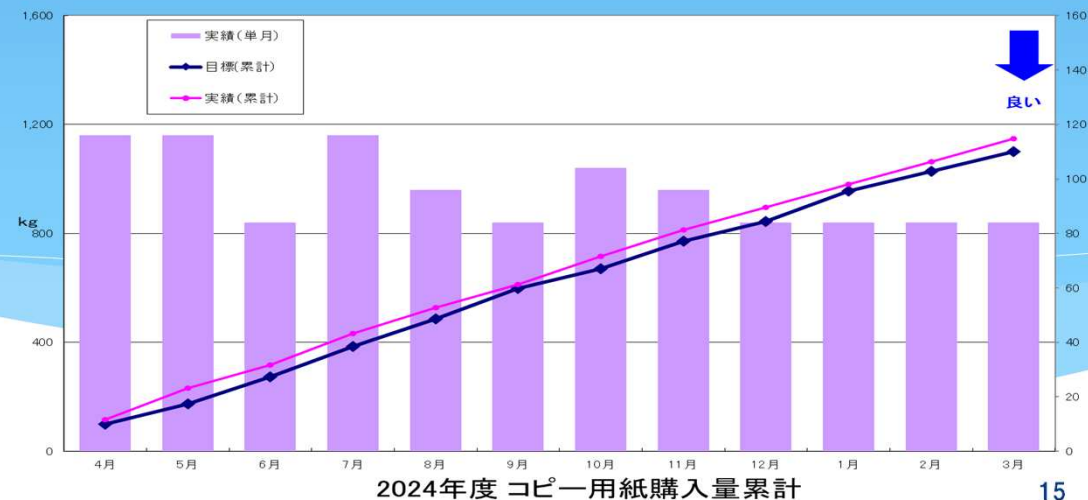
2024年度
自動車燃料使用量累計

目標達成



2024年度
コピー用紙購入量累計

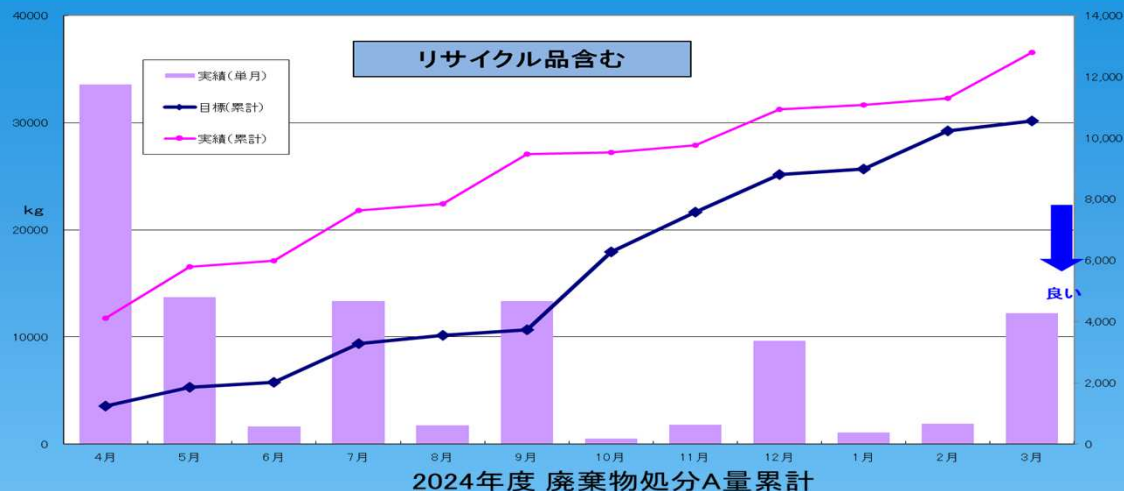
上期に使用量が多かった影響で
目標未達成



7-2. 環境活動の取り組み結果の推移 ③

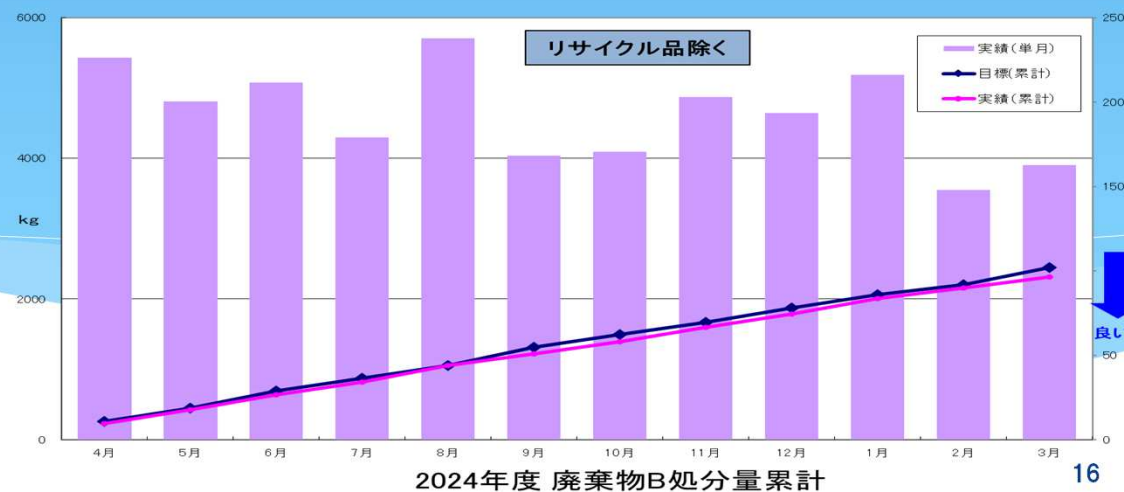
2024年度 廃棄物A処理量累計

4月の機械オーバーホールによる洗
浄の影響で
目標未達成



2024年度 廃棄物B処理量累計

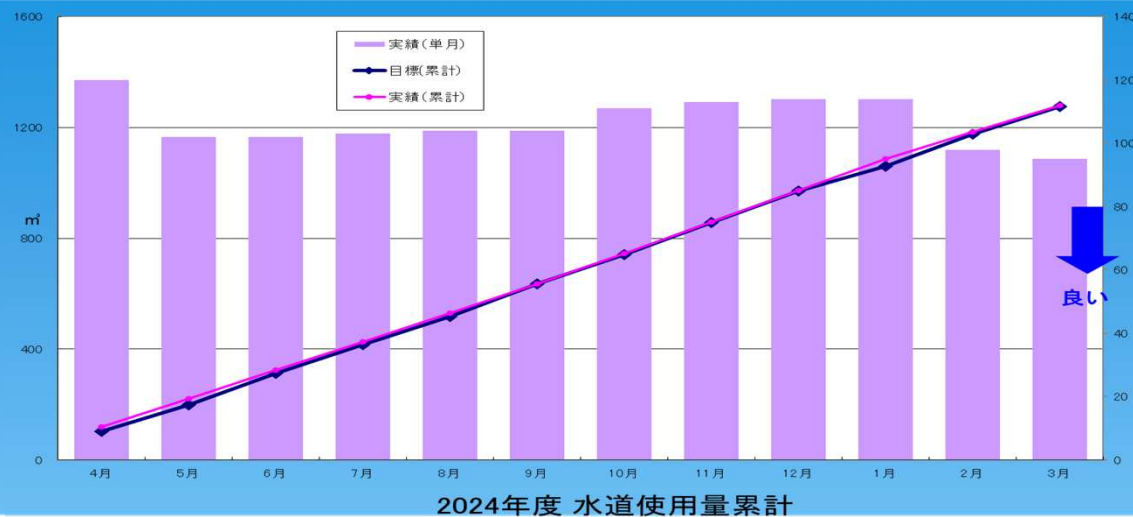
目標達成



7-2. 環境活動の取り組み結果の推移 ④

2024年度 水道使用量累計

機械オーバーホールによる洗浄と消
火栓訓練の影響で
目標未達成



7-3. 本来業務の取り組み結果

実施部署		計画内容	取組結果	評価
営業部		纏め出荷によるトラック数の削減(CO2削減)	生産部と出荷計画を調整し前倒しで出荷できるように受注・納期調整を行った結果、年間57回削減した。	○
		コピー用紙削減	図面をA3→A4、配車表FAX廃止、裏紙活用ルール制定。	
品質保証部		社員の品質意識向上を図り不良削減に繋げる。	教育を実施した直接部門の不良は削減したが、間接部門の不良が増えてしまった。	△
		品質KYTの教育を実施し浸透させる	日常活動として定着した。	○
生産部	機械生産課	設計レビューの拡大と充実	作業者同士で作業内容について共通認識を行えた。 関係者で設計構想図に対して検討し、製作前に再設計、修正をして出図を行う事で設計不良を防げた。	△
	金型生産課	品質向上させて再製作などに掛かる生産ロス(素材、溶接、修正工数)を削減	前年比より減少したが目標未達であった。	×
総務部		業務システム活用等による自部門業務効率化	電子申請継続40件、新規4件 弁当発注システム社内満足度96%	○
		データベース整備推進	情報ビュー追加1件とデータベースの改修に留まった。	△

7-3. 2025年度環境経営目標

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、二酸化炭素排出量の95%を占める電力使用量、廃棄物処分量、コピー用紙購入量、総排水量の削減に取り組む。環境負荷と環境への取組結果を踏まえ、定めた環境負荷低減のための目標値は次の通りである。

環境負荷低減目標 基準値：2024年度（2024年4月～2025年3月）とする。

項目	単位	基準値	2025年度		2026年度		2027年度	
			値	達成率	値	達成率	値	達成率
二酸化炭素排出量	kg-Co2	989,277	959,916	97.0%	958,784	96.9%	957,652	96.8%
電力使用量	kWh	2,130,071	2,066,169	97.0%	2,064,039	96.9%	2,061,909	96.8%
自動車燃料使用量	L	6,320	6,257	99.0%	6,250	98.9%	6,244	98.8%
コピー用紙購入量	kg	1,148	1,102	96.0%	1,091	95.0%	1,079	94.0%
廃棄物処分量A	kg	36,581	35,849	98.0%	35,666	97.5%	35,484	97.0%
廃棄物処分量B	kg	2,316	2,293	99.0%	2,281	98.5%	2,270	98.0%
総排水量	m ³	1,280	1,267	99.0%	1,261	98.5%	1,254	98.0%
化学物質使用量	kg	70	70以下	100%	70以下	100%	70以下	100%
本来業務	加工ロス削減、設備・機械のメンテナンス、加工・作業の見直し、加工プログラムの見直し、カイゼン提案による作業時間短縮等をテーマに活動を行っている。							

使用電力に対する二酸化炭素排出係数は2020年度の0.457を採用
 廃棄物処分量Aはリサイクル含む、廃棄物処分量Bはリサイクル除く

7-4. 2025年度の環境経営計画

No.	推進項目	単位	目標	計画内容
1	二酸化炭素排出量削減	kg-Co2	959,916 以下	電力使用量監視、社有車のガソリン使用量監視、品質パトロール
2	電力使用量削減	kWh	2,066,169 以下	電力使用量監視、品質パトロール
3	自動車燃料使用量削減	L	6,257 以下	社有車のガソリン使用量監視、公共機関利用
4	コピー用紙購入量削減	kg	1,102 以下	両面印刷、集約印刷の実施、ペーパーレス会議の推進
5	廃棄物A処分量削減	kg	35,849 以下	リサイクルの推進、分別の細分化
6	廃棄物B処分量削減	kg	2,293 以下	リサイクルの推進、分別の細分化
7	総排水量削減	m ³	1,267 以下	水使用量の把握、節水の呼びかけ
8	化学物質使用量削減	kg	70 以下	使用量の把握

7-5. 2025年度の環境経営計画（本来業務）

実施部署		計画内容
営業部	金型営業課 機械営業課	業務を見直し書類を電子化する事で紙の使用量を削減していく。
品質保証部		品質意識を底上げし、クレーム・工程内不良の更なる削減を図る。 「5Sの目的」を理解してもらい「あるべき姿」を定めて整理・整頓を定着させる。
生産部	機械生産課	設計レビューの拡大と充実(継続)
	金型生産課	省エネを意識した改善の立案 品質向上させて再製作などに掛かる生産ロス(素材及び溶接費用)を削減する。
総務部		経費精算システムの導入 データベースの構築（マネジメントシステム・設備関連）

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

◆当社に關係する環境関連法規◆

廃棄物処理法、フロン排出抑制法、消防法、労働安全衛生法、騒音規制法、振動規制法、資源有効利用促進法、家電リサイクル法、自動車リサイクル法、建築物省エネ法、工場立地法、下水道法、横浜市生活環境の保全等に関する条例および、横浜市火災予防条例

◆関連法規の遵守状況結果及び訴訟の有無は次の通りである。

内容	結果
法律違反の有無	なし
訴訟の有無	なし

適用となる14の法規制を「環境関連該当法規等一覧表」にまとめ、年に一度、「環境法規制等の遵守チェックシート」に基づき、遵守状況をチェックしています。

その結果を要約すれば、上記のように過去3年間、関係当局からの違反等の指摘はありません。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

《 見直し項目・指示 》

1. 2024年度環境目標は、8項目中5項目で目標未達であった。事務局は2025年度の環境目標達成に向け、各部門に対し環境目標を意識した環境活動の推進を働きかけること。
2. 2023年度の内部環境監査においては、2024年6月30日の有効性確認の提出期限が守られていなかった。2024年度の内部環境監査の該当7件については、提出期限を守らせるように事務局として管理すること。
3. ペットボトルキャップの分別回収においては、NPO法人の解散により今回ワクチン提供活動がストップしてしまった。長年にわたり実施してきた活動なので、新たな回収団体を探し、継続する方法を検討すること。
4. 2024年度の環境経営計画の実施状況は、是正処置対象(単月評価で6ヶ月以上目標未達)は無いが、累計評価では未達が連続している。2025年度は監視と分析をきめ細かく行い、累計評価で未達が連続した場合に、速やかに改善等の処置を行うこと。

- ・ 環境方針は4/1付で変更
- ・ 環境目標を承認する
- ・ 環境経営マニュアルは変更の必要なし
- ・ 実施体制は改訂40を承認する